

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 24 日作成)

小委員会名	地球環境構造小委員会	主 査 名：大谷 恭弘 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：外岡 豊
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・地球環境の観点から 2050 年に目指す地域システムの在り方や安全・安心社会に向けての建築行為の中で構造分野が果たすべき役割を明確にし、建物の寿命マネジメントや環境負荷低減、木材利用ならびに進行しつつある気候変動への対応、およびそれらの事業化について検討し、建築の材料、施工、構造の立場から、取り組むべき課題と数値目標を明らかにし、2050 年の低炭素社会の実現に向けた構造分野のロードマップを作成する。</p> <p><13 年度> これまでの本小委員会活動および各分野（木造，RC 造，S 造，新素材）における取り組みと課題を整理し、2050 年の低炭素社会の実現のためのロードマップを構造分野の視線で検討する。</p> <p><14 年度> 環境負荷低減と気候変動を考慮した上での安全・安心社会へ向けた都市と建築の近未来像を考え、そのような地球環境時代における建築構造分野の役割についてパネルディスカッションを開催し、討議の内容をまとめる。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>大谷恭弘（神戸大学）、兼光知己（清水建設）、稲田達夫（福岡大学）、田村和夫（千葉工業大学）、西村 功（東京都市大学）、坂本成弘（大成建設）、平川倫生（三菱地所設計）、藤田正則（山口大学）、柳橋邦生（竹中工務店）、軽部正彦（森林総合研究所）、三澤 温（アラップ・ジャパン）</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>「高耐震都市研究WG」 地震災害に対する都市の脆弱性の問題などの現代都市が抱える緊急の課題について、地震工学あるいは耐震工学・材料工学の立場から検討を行い、解決のためのシナリオを見出す。</p> <p>「地球環境時代における木材活用 WG」 カーボンニュートラルな木材の活用促進を図るための現状課題の抽出とその解決策を、国内需給や国際的な資源循環を踏まえて提案する。</p>	
2014 年度予算	85,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	10 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	<p>シンポジウム「近未来の地球環境時代における建築構造分野の役割 －環境負荷低減と安全・安心社会へ向けた都市と建築の未来像を考えて－」 参加者数 38 名</p>
大会研究集会	

対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 当初計画した 2014 年年次大会でのシンポジウムは開催数制限等により実施ができなかったが、同年 12 月に開催を実施することができた。 2. 環境負荷低減を主たる目的としたロードマップの作成・提案を、進行する気候変動も考慮した内容でのロードマップ作成に向けた方向に修正し、それを元にシンポジウムを行い、討議を通し内容をより深めることができた。
委員会活動の問題点・課題	1. 環境負荷低減や進行する気候変動への問題意識を建築構造分野で共有、あるいは浸透させるための効果的な活動内容のアウトプットの方法が課題 2. 関東地域以外の委員もメンバーであるので、委員会の開催時間・回数に多少の制約が生じる。 3. 小委員会内だけの議論では捉えきれない部分があり、構造以外の分野の委員の参加や他の地球環境小委員会との連携を今後は図っていくことが望ましい。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。